

2020年8月3日

国連責任投資原則(PRI) 2020年アセスメント結果(評価期間:2019/1~12)

~4分野で最高評価「A+」を獲得し、3年連続で全分野グローバル中央値以上~

第一生命保険株式会社(代表取締役社長:稲垣 精二、以下「当社」)は、責任投資(ESG投資およびスチュワードシップ活動)の取組みを持続的にレベルアップするため、2015年に責任投資のグローバルスタンダードである国連責任投資原則(以下「PRI」)に署名しています。今般、2020年のPRI年次アセスメント(評価期間:2019/1~12)の結果が判明したため、お知らせします。

<年次アセスメント結果>

分野	2019年 (評価期間:2018/1~12)		2020年 (評価期間:2019/1~12)	
	当社評価	署名機関中央値	当社評価	署名機関中央値
戦略とガバナンス	A	A	A+	A
上場株投資	A	B	A+	A
スチュワードシップ活動	A+	B	A+	B
債券投資	A	B	A	B
不動産投資	A+	B	A+	B

(※)債券投資は、4分野(国債等、社債(金融)、社債(非金融)、証券化商品)の平均を記載

当社は、2018年、2019年に続き、3年連続で全ての分野においてPRI署名機関¹の中央値を上回る評価を得ています。特に、戦略とガバナンス、上場株投資、スチュワードシップ活動および不動産投資の4つの分野において最高評価であるA+を獲得しました²。

2015年のPRI署名以降、当社は責任投資の態勢整備やESG投資の高度化を継続的に実施しており、今回のアセスメント結果についても、責任投資委員会(社外委員3名、社内委員2名)で振り返りを行い、経営会議への報告を経て、当社の責任投資の取組みの更なるレベルアップに繋げていきます。

¹ グローバルで3,232社、日本国内で85社(2020年7月31日時点)

² スチュワードシップ活動および不動産投資については3年連続で最高評価のA+を獲得

＜責任投資の推進態勢＞



＜PRI(Principles for Responsible Investment)の概要＞

PRIは、持続可能な社会を実現させるため、機関投資家に対して責任投資の実施を提唱する原則（イニシアティブ）です。2005年の発足以降、グローバルで署名機関が増加しており、足元では日本で85社、グローバルでは3,232社(2020年7月31日時点)の金融機関等が署名しています。

署名機関は毎年、責任投資の態勢や取組み状況等の観点で、PRIからアセスメントを受け、6段階(A+、A～E)のランクで評価されます。PRIのアセスメント項目は、グローバルな責任投資に係る動向等を踏まえて毎年見直されることから、アセスメントを継続的に受けることで、当社の責任投資の取組み水準を持続的に向上させることができると考えています。